



大雨による災害から 命を守るために

9月11日未明——市内に突然降り注いだ大雨は、住宅への浸水や土砂崩れなどの被害をもたらしました。大雨による災害は全国的に増えており、札幌でも今回を上回る大雨に見舞われる恐れがあります。この特集では、大雨による危険や避難時の心構え、日頃からできる備えなどを紹介。災害から自分自身や大切な人の命を守る方法を考えます。

【詳細】危機管理対策課 ☎211-3062



北海道新聞社提供



毎日新聞社提供



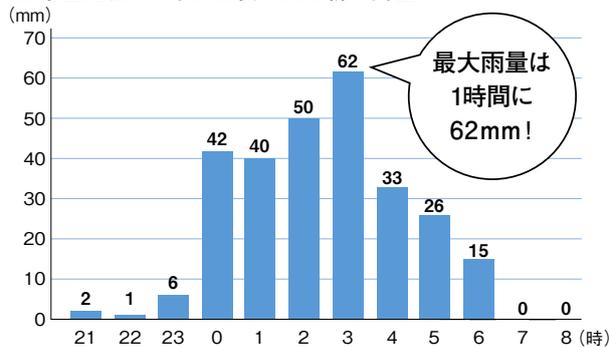
札幌を襲った 大雨を振り返る

9月11日は、数十年に一度の雨が降ると見込まれるときに発される「大雨特別警報」が道内で初めて発表されるほど、すさまじい雨でした。市では33年ぶりとなる避難勧告を6つの区、約78万人に発令。緊迫した状況でした。

過去最大級の 大雨が短時間に

9月11日、0時から7時までに南区常盤で計測された雨量は268mm。これだけの雨量は、市では過去に例が無いほどのものでした。住民の少ない山間部に雨が集中したため、人的な被害はありませんでしたが、住宅への浸水などを引き起こしました。

■常盤地区の9月10日夜～11日朝の雨量



■市内の主な被害

床上浸水	7戸
床下浸水	2戸
住宅一部損壊	1戸
道路冠水	98カ所
土砂崩れ	9カ所
河川氾濫など	40カ所

実際に避難した方が語る大雨の恐怖



鳴り止まない雷鳴と 増水する川に 恐ろしさを感じました

おおもり ようこ
大森 陽子さん

南区石山東地区、真駒内川沿いの一戸建て住宅に居住。川が氾濫する危険を感じて、石山東小学校に避難した。

9月11日未明からのたたきつけるような雨の音や、激しく光る雷、家の脇を流れる真駒内川の轟音で、ほとんど寝られませんでした。午前3時ごろラジオで避難勧告の発令を知り、さらに不安が募りました。

「川が氾濫するのでは」と身の危険を感じ、夜明けを待って避難所になっている小学校に向かいました。そのとき、川の水は茶色く濁り、堤防から今にもあふれ出るように見えたことを覚えています。



この日、市内156カ所に避難所を開設。479人が身を寄せた
(写真は南区常盤小学校)

小学校までは歩いて12分ほど。鳴り止まない雷と雨の中、食料などを持って歩く道のりはとても長く感じられました。

避難所に着いたとき、すでに10人ほどの人がいたように思います。幸い、わが家の周辺で川の氾濫はありませんでしたが、今後も同規模の大雨が降るかもしれません。命を守るために、災害がもたらす危険を知り、安全に避難する方法を考えておかなければと、あらためて感じています。

9月11日の大雨で 見えてきた課題

市は大雨警報が出た時点で警戒体制をとり、速やかに避難勧告を発令することで、皆さんに危険をいち早くお知らせするとともに、人的被害の防止に努めました。結果、死者やけが人は出ませんでした。開設が遅れた避難所が複数あったことなど、課題も残りました。市は今回の大雨を受け、災害の専門家の意見を聞きながら課題を検証し、非常時により適切な対応が取れるよう災害対策を強化していきます。

大雨が引き起こす危険を知る

大雨がきっかけで起こる災害には、家や道路が水につかる「浸水」と、崖が崩れたり、土砂が流れたりする「土砂災害」の二つがあります。

浸水

川沿いではなくても油断は禁物。傾斜などにより川から離れた地域でも発生する可能性があります



川が氾濫し 道路や家が水につかる

川の近くでは堤防からあふれた大量の水が勢いよく流れ出し、辺り一帯に広がります。土地の低いところでは1階部分が全て浸水することもあります。

雨水ますやマンホールから 水があふれ出る

通常、雨は道路脇の雨水ますなどから下水管を通して川に排水されます。しかし、排水しきれない量の雨が流れ込むと、下水管につながるマンホールのふたが外れたり、水が道路にたまったりします。

地下街や地下通路に 水が流れ込む

道路にたまった水は、地下へ向かう階段へ流れ込みます。浸水が進むと水圧でドアが開かなくなったり、停電でエレベーターが使えなくなったりして、閉じ込められる危険性があります。

浸水の危険を感じたら…

速やかに情報を集め 待機するか避難所に向かうか判断を

テレビやラジオ、インターネットなどで情報を集め、建物の中に待機するか、避難所などに逃げるかを判断しなければなりません。自宅の2階以上など、予想される水位よりも高い所にいられる場合は、その場での待機も有効です。



避難所など 向かうときは

丈の短いひも靴を履く

長靴だと中に水が入り、脱げて移動がしづらくなることも。脱げにくいひも靴が最適です。

探り棒で足元を確認しながら歩く

道路にたまった水は濁っているため、マンホールのふたが外れてできた穴や、ガラス片などが見えません。棒で足元を確認しながら移動すると安全です。

土砂災害

山沿いや崖地で発生することが多い災害。坂の多い市街地でも起こる可能性があります



土砂が沢から押し寄せる「土石流」

山や川底にある大量の土砂が沢や川に流れ出す災害。時速20km~40kmで一気に押し寄せ、辺りを埋め尽くします。

斜面が突然崩れる「崖崩れ」

地中に水がしみ込み、土の抵抗力が弱まることで発生。斜面にある土砂や石、木などが勢いよく崩れ落ちてきます。

土砂災害の前兆も知っておこう

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 2~3時間前 | ・斜面から水があふれ出てくる
・川の水が濁る |
| 1~2時間前 | ・斜面から小石が落ちてくる
・川に木が流れてくる |
| 直前 | ・斜面に亀裂が入る
・地鳴りが聞こえる |

土砂災害の危険を感じたら...

前兆に気付いたらすぐに行動

土石流や崖崩れは発生してから避難しても間に合わないことが多い災害です。前兆を感じたら、すぐにその場を離れるか、頑丈な建物の斜面から遠い2階以上の部屋に移動し、区役所に連絡してください。

土石流からは流れと直角に逃げる

土石流の勢いはすさまじく、流れに沿って逃げると飲み込まれてしまうことも。流れに対して直角に走ると逃げ切りやすくなります。

9月11日の大雨の後、皆さんから寄せられた疑問にお答えします

携帯電話にたくさん届いた緊急速報メールとは？

市と携帯電話会社が協力し、災害に関わる情報を市内にいる方に直接かつ迅速にお伝えるサービスです。今後は地域を限定して送信することなどを、携帯電話会社と協議していきます。

避難勧告が出てもどうしたらよいのか分からなかった...

避難勧告とは、災害の危険が迫っていることを伝え、直ちに身を守る行動をとることを促すものです。大雨時の避難には、近所の小中学校などの「安全な場所への移動」と、自宅などの「高い階への移動」の二つの方法があります。状況に合わせて判断することが必要です。

■避難情報は危険度に応じて3段階で発信

避難準備情報

災害を予測して避難の準備を呼び掛けるもの。高齢の方や、障がいのある方などは避難開始の目安になります。

避難勧告

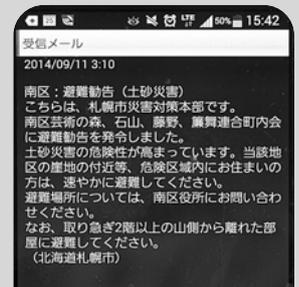
9月11日に発令したもの

災害が発生する可能性が極めて高い状況で発令するもの。

避難指示

死者やけが人が出る可能性が極めて高いか、すでに発生した状況で発令するもの。

一刻も早く避難してください



▲実際に送信した緊急速報メール。大きな警告音でお知らせしました

大雨を想定して 万全の備えを

災害が発生したときに適切な行動を取るためには、日頃からの心構えが欠かせません。家庭や地域で災害が起きたときのことを想像し、いざというときに備えることが大切です。

家庭での備え

危険な区域と避難場所が分かるマップで 自分の家の危険度を確認しよう

市では、洪水や土砂災害の被害を受けやすい地域を確認できるマップを配布しています。このマップを使って、避難する場所や経路を確かめてみてください。



洪水ハザードマップ

洪水発生時の危険箇所や避難場所、避難の目安などが分かる地図。豊平川などの大きな川と、それ以外の小規模な川に分けて作成しています。



土砂災害避難地図 土砂災害危険箇所図

崖崩れや土石流による危険が予想される区域や避難場所を掲載。山沿いのほか、平地でも被害が想定されている地域もあります。



洪水ハザードマップ、土砂災害避難地図は区役所などで配布中
土砂災害危険箇所図は区役所などで見ることができます

ホームページでも見られます

札幌市 災害危険箇所図

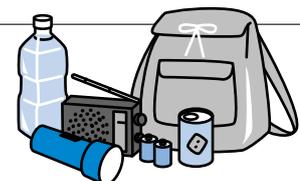
避難時の持ち出し品を そろえておこう

小中学校などの避難所に逃げる場合、そこで過ごす時間が長くなることもあるため、最低限の生活必需品を持ち出さなければなりません。必要なものをあらかじめリュックサックなどに詰めて保管しておくことで安心です。

最低限、これらのものは準備!

持ち出し品チェックリスト

- 食料(缶詰など)・水
- 携帯ラジオ・電池・懐中電灯
- ロープ・探り棒
- 常備薬



- 衣類・防寒具・下着
- かっぱ・雨具
- ハザードマップ・避難地図

地域での備え

清田区・北野第二団地自治会

川の氾濫などを見据え 支援が必要な人を事前に把握

近くにある厚別川の氾濫や地震を想定し、アンケートを通して「支援ができる方」と「支援が必要な方」を把握しています。あらかじめ誰が誰を助けるか決めておくことで、災害時にとるべき行動を明確にし、迅速な避難につなげます。



先日の大雨時、近くの厚別川は氾濫寸前でした。実際に災害が起こったときに慌てることのないよう、最悪の状況を想定することが、私たちの命を守るのだと思います。これからも地域みんなで話し合いながら防災意識を高めていきたいですね。

さ さ き りょうこ
民生委員 佐々木 涼子さん



▶ 支援が必要な方を実際に運び出す訓練を実施。避難経路や救命の方法が再確認できたこと好評だった



中央区・宮の森大倉山連合町内会

土砂災害などを想定した訓練で 災害に負けない地域づくり

訓練は平成3年から毎年行っており、今年は約130人が参加。土砂崩れで倒壊した家屋の模型を使った人命救助や、土砂を運び出すバケツリレーなど、体験を交えて行っています。



この地域は、三角山など三つの山に囲まれた傾斜地にあるので、「土砂災害は必ず起こる」という意識で防災に取り組んでいますよ。訓練のたびに機材の使い方や、災害時の役割分担を確認できるので、今後も毎年開催していきます。

よしだ しげひろ
宮の森大倉山連合町内会会長 吉田 重弘さん



▲ 訓練では、土砂が川の流れを変えることで起こる浸水を想定し、土のう作りを行った

▶ 地域活動の拠点である町内会館に、防災機材をそろえている



大雨から 得られた教訓を 未来に生かす

市民を不安と恐怖に陥れた9月11日の大雨。そこから得られた教訓を、私たちは今後生かしていかなければなりません。記憶が鮮明なうちに、家庭や地域で一度あの日の行動を振り返り、今後起こるかもしれない災害への備えに役立ててみてはいかがでしょうか。

防災のことが詳しく分かる冊子を配布中！



大雨や地震発生時の避難方法などを解説



地域のできる防災の取り組みを紹介



大雨や竜巻発生時の避難方法を説明

配布場所 区役所、市役所7階危機管理対策課 ほか

ホームページでも見られます

札幌市 パンフレットライブラリー

